

研究課題の名称「超音波による肘屈曲・伸展位での肩挙上時の肩峰骨頭間距離の検討」

研究の目的・意義 鏡視下腱板修復術の術後成績に影響を及ぼす因子として再断裂がある。術後リハビリテーションにおいては、術後3ヵ月の他動の肩甲骨面挙上において43%に縫合部のインピンジメントが確認されたと報告されている。そのため、他動可動域の獲得はインピンジメントが生じないように実施することが再断裂の予防に重要である。一方で、他動の挙上可動域の獲得に関する具体的な方法についての報告は少ない。今回、インピンジメントの予防目的で、超音波装置を用いて肘関節の屈曲位と伸展位における他動挙上時の肩峰骨頭間距離（Acromiohumeral Interval:AHI）と肩甲骨動態の特徴について比較検討した。

研究対象者の選定方法 当院リハビリスタッフ 15例 30肩

研究予定期間 2022.7.4～10.8